

平成30年度 学校評価公表シート

安田女子大学附属幼稚園

1. 園の教育目標

人間形成の基盤が培われる大切な幼児期に、一人の人間として自立して生きられるよう、大切なことはきちんと教えたい。学園創設以来、守られてきた学園訓「柔しく 剛く」の建学の精神のもと、「やさしい心 たくましい力」をもった子どもの育成に努めることを教育方針とし、次のような子ども像を教育目標として掲げている。

○元気でやる気のある子ども

○自分のことが自分でできる子ども

○友達と仲良くできる子ども

教育の柱として以下の3つの項目をあげる。

1. 自然が好き（頭と身体を存分に使って遊び、丈夫な身体と強い心、自然の恵みに感謝する心、感動する心を育む）
2. 自分が好き（挨拶や片付けなど基本的生活習慣の定着と聞く・話す・考える・表現するなど自信をもって行動していく力を育む）
3. 友達が好き（友達のよさに気づき、協同・協調する力を伸ばし、集団の中で約束を守る態度を育む）

2. 園の教育目標 重点目標とその設定理由

本園の3つの教育の柱として掲げている自然が好き・自分が好き・友達が好きを毎年一年ずつ目標設定の対象とし、サイクルにして取り組みを進めている。今年度は、指導の重点を「**自然が好き**」とし、重点目標を「**意欲的に環境に関わり、頭と体を存分に使って遊ぶ子どもの育成～遊びの提供・充実を考える～**」とした。また、学年の努力事項を定め、より具体的に意識できるようにした。

年少：先生や友達と一緒に遊ぶことを楽しみ、考えたことを遊びに取り入れようとする

年中：先生や友達と一緒にいろいろな活動に進んで取り組む中で、気付いたことや知ったことを遊びや生活に活かそうとする

年長：友達とさまざまな活動に意欲的に取り組み、発見したり考えたり工夫したりしながら遊びを進める

＜設定理由＞

重点目標「意欲的に環境に関わり、頭と体を使って遊ぶ子どもの育成～遊びの提供・充実を考える～」は、遊びの中でどんなことを感じたり考えたりしながら遊んでいるのか、その経験を通して何が育っているのかを理解し、計画性や連続性をもって教師が遊びの提供や環境の充実を考えることで、遊びの中で自ら気づいたり意欲的に行動したりする力を育てたいという思いで設定した。

3. H30年度・保護者アンケート結果（全体）

205人／205人 回収率100%

幼稚園の指導と子どもの育ちに関する質問事項			保護者の評価			
			4…十分あてはまる	3…あてはまる	2…あまりあてはまらない	1…全くあてはまらない
1	幼稚園の指導	教師も一緒に遊びに参加したり誘ったりしながら、運動遊びを提供している (・チャレンジカードの活用 ・運動遊びができる場や機会の提供)	年少：84% 年中：90% 年長：95%	年少：16% 年中：10% 年長：5%	年少：0% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
	子どもの育ち	年少：先生や友達と一緒にいろいろな運動遊びをやってみようとするようになった 年中：うんていや縄跳びなど友達と一緒に取り組むようになった 年長：自分なりのめあてをもち友達と一緒に運動遊びに取り組むようになった	年少：69% 年中：84% 年長：85%	年少：30% 年中：16% 年長：15%	年少：1% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
2	幼稚園の指導	園や学内の自然を取り入れた遊びの提供をしている (・クラスでの飼育栽培活動 ・園内や学内の散歩 ・草花や木の実、木の葉等自然物の収集と活用)	年少：95% 年中：84% 年長：96%	年少：4% 年中：16% 年長：4%	年少：1% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
	子どもの育ち	年少：先生や友達と一緒に動植物に喜んで関わるようになった 年中：身近な動植物に親しみをもって関わり大切にしようとするようになった 年長：身近な動植物に自ら関わり試したり調べたりするようになった	年少：75% 年中：68% 年長：66%	年少：22% 年中：28% 年長：31%	年少：3% 年中：4% 年長：3%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
3	幼稚園の指導	野菜や果物など生長を感じたり、みんなで育てることや収穫したりする機会を計画的に提供している (・野菜プロジェクト ・年間を通しての収穫栽培活動)	年少：93% 年中：90% 年長：98%	年少：7% 年中：10% 年長：2%	年少：0% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
	子どもの育ち	年少：先生と一緒に植物を収穫したり育てたりすることを喜んでするようになった 年中：自分たちで植えた野菜や花など自分から進んで世話をしようしたり、喜んで収穫したりするようになった 年長：自分たちで植えた野菜や花などの成長に関心をもち自分から進んで世話をするようになった	年少：77% 年中：60% 年長：56%	年少：23% 年中：36% 年長：40%	年少：0% 年中：4% 年長：3%	年少：0% 年中：0% 年長：1%
4	幼稚園の指導	喜んで食事をするできるように家庭と協力をしている (・月1回の割合で生活カレンダーの活用 ・絵本などの教材利用)	年少：81% 年中：80% 年長：80%	年少：19% 年中：20% 年長：20%	年少：0% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
	子どもの育ち	年少：色々な食べ物を喜んで食べようとするようになった 年中：嫌いな物でも食べてみようとするようになった 年長：好き嫌いなく食事をしようとするようになった	年少：59% 年中：65% 年長：58%	年少：39% 年中：32% 年長：37%	年少：1% 年中：3% 年長：5%	年少：1% 年中：0% 年長：0%
5	幼稚園の指導	年齢に応じたルールのある遊びを提供している (・設定活動でルールのある遊びを提供)	年少：88% 年中：91% 年長：94%	年少：12% 年中：9% 年長：6%	年少：0% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
	子どもの育ち	年少：先生や友達と一緒に簡単なルールのある遊びに喜んで参加するようになった 年中：ルールのある遊びの楽しさを感じ自分から進んで参加するようになった 年長：友達と相談したり遊び方を考えたりしてルールを守って遊ぶようになった	年少：77% 年中：62% 年長：80%	年少：22% 年中：35% 年長：19%	年少：1% 年中：3% 年長：1%	年少：0% 年中：0% 年長：0%

幼稚園の取り組みに関する質問事項		4	3	2	1
6	教員は一人一人の発達を理解し、それにあった対応をしている	年少：88% 年中：88% 年長：97%	年少：12% 年中：12% 年長：3%	年少：0% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
7	園長以下教職員は、保護者の話を丁寧に聞いたり、相談にのったりする等の対応をしている	年少：94% 年中：90% 年長：97%	年少：6% 年中：10% 年長：3%	年少：0% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
8	保育だよりやクラスだよりで子どもの生活や育ちを分かりやすく伝えている	年少：91% 年中：87% 年長：94%	年少：9% 年中：13% 年長：6%	年少：0% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
9	生活カレンダーの取り組みは、生活習慣の定着に役立った	年少：53% 年中：48% 年長：57%	年少：43% 年中：41% 年長：39%	年少：4% 年中：10% 年長：4%	年少：0% 年中：1% 年長：0%
10	安全指導を適切に行っている（避難訓練、道路の歩き方など）	年少：88% 年中：86% 年長：94%	年少：12% 年中：14% 年長：6%	年少：0% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
11	保護者参加の行事の回数は適度である（参観日、懇談など）	年少：76% 年中：71% 年長：83%	年少：23% 年中：29% 年長：17%	年少：1% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%
12	幼稚園は大学等の施設などを園生活の中で活用し、子どもにとって有益なものにしている（お泊り保育、学内散歩、やすだこども劇場など）	年少：94% 年中：84% 年長：100%	年少：6% 年中：16% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%	年少：0% 年中：0% 年長：0%

年長児のみ	お子様を本園に通わせ、卒園させることに満足されていますか？	満足している	やや満足している	満足していない
		100%	0%	0%

※保護者アンケートの回収率は、これまで 98%や 99%が多かったが、今年度初めて 100%であった。保護者の方々の学校評価に対する意識の高さはこれまでも感じていたが、今年度 100%の回収率となったことは、保護者の皆様方のご協力に感謝したい。本園の保護者の方々は、我が子が通っている園の教育に関心をもち、同じ目標に向かって子どもの成長の手助けをしようという意識をもってくださっている方が多いことを日頃の生活の中でいつも感じていることである。園と保護者が連携し、共通意識をもって教育を推進することができることは園として、教員としてやりがいを感じ、有りがたい限りである。

※保護者アンケートを基に、1 年間の幼稚園の取り組み（具体的な手立て・環境構成や教員の援助など）による子どもたちの育ちについて評価した「自園評価」も合わせて公表しています。

結果は次頁のとおりです。

4. 学校評価 結果

評価の仕方…保護者の評価の欄は、アンケート結果の「4」十分あてはまるが全体の何割を占めているかで表示している。園の評価の欄は、目指す子どもの姿に基づいて保育してきたことで子どもたちがどのように伸びているかを4段階で評価し、そのうちの「4」十分あてはまるが全体の何割を占めているかで表示している

※アンケート結果の「4」80%以上…4、60%～79%…3、40%～59%…2、40%未満…1

幼稚園の指導に関する評価項目			保護者の評価			園の評価	
			学年		全学年	学年	全学年
1	幼稚園の指導	教師も一緒に遊びに参加したり誘ったりしながら、運動遊びを提供している (・チャレンジカードの活用　・運動遊びができる場や機会の提供)	少	4	4	3	3.7
			中	4		4	
			長	4		4	
2	幼稚園の指導	園や学内の自然を取り入れた遊びの提供をしている (・クラスでの飼育栽培活動　・園内や学内の散歩 ・草花や木の実、木の葉等自然物の収集と活用)	少	4	4	3	3.7
			中	4		4	
			長	4		4	
3	幼稚園の指導	野菜や果物など生長を感じたり、みんなで育てることや収穫したりする機会を計画的に提供している (・野菜プロジェクト　・年間を通しての収穫栽培活動　)	少	4	4	3	3.3
			中	4		4	
			長	4		3	
4	幼稚園の指導	喜んで食事をするできるように家庭と協力をしている (・月1回の割合で生活カレンダーの活用　・絵本などの教材利用)	少	4	3.7	3	3.7
			中	4		4	
			長	3		4	
5	幼稚園の指導	年齢に応じたルールのある遊びを提供している (・設定活動でルールのある遊びを提供)	少	4	4	2	3
			中	4		3	
			長	4		4	
幼稚園の取り組みに関する質問事項			保護者の評価			園の評価	
6		教員は一人ひとりの発達を理解し、それにあった対応をしている	少	4	4	3	
			中	4			
			長	4			
7		園長以下教職員は、保護者の話を丁寧に聞いたり、相談にのったりする等の対応をしている	少	4	4	3	
			中	4			
			長	4			
8		保育だよりやクラスだよりで子どもの生活や育ちを分かりやすく伝えている	少	4	4	3	
			中	4			
			長	4			
9		生活カレンダーの取り組みは、生活習慣の定着に役立った	少	3	3.3	3	
			中	3			
			長	4			
10		安全指導を適切に行っている(避難訓練、道路の歩き方など)	少	4	4	3	
			中	4			
			長	4			
11		保護者参加の行事の回数は適切である(参観日、懇談など)	少	3	3.7	3	
			中	3			
			長	4			
12		幼稚園は大学等の施設などを園生活の中で活用し、子どもにとって有益なものにしている(お泊り保育、学内散歩、やすだこども劇場など)	少	4	4	3	
			中	4			
			長	4			
保護者への対応・園での教育について						園の評価	
保護者への啓発活動をしていく		幼児期の育ちについて保護者に知らせていく	○保育便り・クラスだよりなどで幼児期の育ちについて知らせていく				3
子ども理解を深める		園全体で子どもたち一人一人の把握に努める	○教員間で子ども理解を深めるようミーティングをする				2
安全教育の実施		年間を通して計画的に安全教育を実施する	○避難訓練を計画的に実施する ○道路の歩き方や渡り方など子どもの生活に身近な安全教育を実施する				3

5. 考察と今後の課題

○自然が好き

「**進んで体を動かして遊ぶことを楽しむ**」については、全学年とも園の指導に関して 80 パーセント以上の評価をいただいたが子どもの育ちについての評価についてはどの学年も園の指導に比べて低い評価だった。各学年「チャレンジタイム」を設け、運動遊びに興味をもてる機会を作ったことで、友達の姿が刺激となったり、子ども同士で教え合ったりする姿もあり、教師や友達と一緒に戸外に出て運動遊びに取り組む姿が見られた。年少児にとっても、年中・年長児の姿を見てやってみようとしたり、クラスの活動の中に運動遊びを取り入れることで体を動かすことの楽しさを感じたりしていたことが伺えた。しかし個人差や経験差があり、みんなで取り組む機会や「チャレンジカード」を作って取り組むことでは、意欲がわからない子どももいた。年齢的な発達を捉えながら、体を動かして遊ぶ楽しさを経験し取り組めるよう、工夫をしながら個々に関わってけるとよかった。子ども一人一人が取り組む過程を保護者にいかに伝え、見えるようにしていくかを今後も考えていきたい。

「**身近な自然に関心をもち、触れる**」については、園の指導に関して高い評価をいただいた。子どもの育ちに関しても、重点目標として取り組んだことで昨年より評価が上がっている。自然が多い環境であることを活かし、年間を通して自然物を使った遊びを取り入れたことや、クラスでの飼育活動を行ったことで高い評価となったのではないかと推測する。引き続き自然物を取り入れた遊びについて年間を通して計画していき、園生活の中で、いろいろな自然体験ができるように環境を整備しながら、子どもたちが積極的に動植物に関心を持てるようにしていきたい。

「**育てる・収穫する経験を通して、食べることに興味をもつ**」については、夏野菜の栽培や、畑や田んぼの栽培活動を計画的に行っていることに関して園の指導では高い評価をいただいた。しかし、子どもの育ちとして年中、年長では 2・1 の評価があった。要因として「自分たちで」と自発的に動くことを評価の基準に捉えていたことと、栽培活動は収穫や開花まで継続して世話をすることが必要であるが、家に持ち帰った後、子ども自身の興味が薄れてしまうことが考えられる。家での栽培活動でも、子ども自身の興味が薄れないようにクラスで話題にするなど工夫して継続して世話ができるように取り組んでいきたい。

○自分が好き

「**生活習慣の定着**」については喜んで食事をすることに焦点をあて、園の指導に関して 70%以上という評価をいただいたが、子どもの育ちに関してはどの学年も 70%未満という結果だった。生活カレンダーは、負担の無いように毎月園で 1 週間、その後、家庭でも 1 週間だけの取り組みとして実施してもらい、生活習慣の定着を目指した。生活カレンダーを園でも用いたことによって各家庭で意識が高まり、良い刺激となったという感想があった。しかし中には、家庭で意識して継続的に取り組んでいくことが難しかったという意見もあった。生活習慣の定着については特に、園と家庭の連携が必須であるため、家庭で継続しやすい方法や期間を検討し、今後の協力を願いたい。

○友達が好き

「**ルールを守って遊ぶ楽しさを経験する**」については、遊びの提供に関しては肯定的な評価をいただいた。しかし、子どもの成長については、評価の 3 が多くなっている。また、ルールのある遊びに参加はしているがルールを守って遊ぶことが難しい、ルールのある遊びにあまり興味が無い姿が見られた。このことから、指導はしているが子どもの成長に十分つながっていないことがうかがえる。一人一人の育ちにつながっていくように、多様な遊びを提供していくことやクラスの活動を工夫していくことなどが課題であると共に、集団としてルールのある遊びを楽しむことができるように育てていくことも必要である。

○幼稚園の取り組みに関することについて

幼稚園の取り組みに関する質問事項では多くの保護者の方から高い評価をいただいた。昨年度より、6・7 の項目は 4 の評価が多くなっている。現状に満足せず、全職員協力をしてより良い保育を目指したい。今年度は、安全教育の実施や大学・短大との連携、生活カレンダーの取り組みがどのように家庭での生活に影響していたかなどを評価していただいた。安全教育は肯定的な評価をいただいております、計画的に避難訓練を実施していくことができたが、様々な災害を想定して作成している安全計画を見直し、危機管理マニュアルの徹底を図っていききたい。大学・短期大学との連携は、今後も継続して行っていく。生活カレンダーの取り組みについては、年間を通して取り組むことに負担を感じた、マンネリ化したという意見もあったが、生活カレンダーがある週は、子ども自身が意識して取り組み、役立てることができたという意見もあった。家庭へのアプローチの仕方や取り組みやすい方法を考えるなど、工夫が必要であると捉えている。今後も幼稚園教育に対する理解と協力を得られるよう園の方針や重点目標についての取り組みをしっかりと伝えていく努力をしていきたい。

※今年度も保護者アンケートは、記名式にしているが、そのことで、子ども一人一人に対する教師の指導や関わり方についての課題が明確になっている。このことは、次年度も引き続き同じ観点で子どもの成長を援助していく保育ができ、利点になっていると捉えている。自由記述に記載していただいたことも踏まえて、次年度も本園の教育を真摯に進めていきたい。